

食品に関するリスクコミュニケーション ～食品中の放射性物質対策に関する説明会～ の実施状況

1. 開催実績

	開催日	参加者数
東京会場	1月16日(月)	262名
福島会場	1月24日(火)	148名
福岡会場	1月31日(火)	140名
宮城会場	2月6日(月)	230名
岩手会場	2月10日(金)	155名
愛知会場	2月20日(月)	147名
大阪会場	2月28日(火)	—

2. 主な意見

(1) 基準値をより厳しくするべきとの観点からのご意見

- ・基準値については、できるだけ低くしてほしい。
- ・消費者だけでなく、生産者も基準値を下げてほしいと思っている。
- ・規制値を厳しくすれば、消費者も安心であり市場も安定するため、生産者も安定して出荷できる。

(2) 内部被ばくと外部被ばくに関するご意見

- ・外部被ばくもある中で、内部被ばくのうち食品のみの基準値は適当でない。

(3) 子どもにさらに配慮した基準値にするべきとの観点からのご意見

- ・給食の基準値が、大人と同じ100Bq/kgでいいのか。
- ・子供のために基準値を更に低くしてほしい。

(4) 新基準値案は厳しすぎるとの観点からのご意見

- ・セシウムによる追加汚染がわずかであるにも関わらず、市場で流通する食品の汚染の割合を50%で計算して基準値を導き出すのは、実態に即したものであるのか、科学的に妥当であるのか。
- ・実際に測定した被ばく線量が、1年間で0.02mSvであるのであれば、今の基準値は十分厳しいものではないか。

(5) 食品区分に関するご意見

- ・干しシイタケについては出汁も含め、基準値を検討すべき。お茶については食べる茶もあり、飲むものだけを測って、安全と言えるのか。

- ・製造・加工食品への基準値の適用で、原材料の状態で適用されるものと食べる状態で適用されるものの2つがあるが、わかりにくく、現場に混乱を起こすのではないか。

(6) 経過措置に関するご意見

- ・経過措置期間は、できる限り短くしてほしい。
- ・流通に混乱を避けるため経過措置を定めたとの説明であったが、米の調査結果では50Bq/kg以下は99.2%、福島県でも98%であり、混乱は生じないのではないか。
- ・流通に余りに配慮した措置であり、経過措置を設けないでほしい。

(7) 検査方法や検査体制に関するご意見

- ・検査体制を強化してほしい。
- ・10万件の検査のうち、牛肉の占める割合が高いため、他の食品のサンプル数を増やしてほしい。

(8) リスクコミュニケーションに関するご意見

- ・100Bq/kgという数値が、安全・安心ということをすべての国民に宣言してほしい。
- ・生産者向けの説明会を開いてほしい。
- ・主食となる米や牛乳などについては、ストロンチウムやプルトニウムの実測値を国として公表してほしい。

(9) リスク評価に関するご意見

- ・低線量被ばくの健康影響としては、白血病、甲状腺がんだけでなく他の疾患も考慮すべきである。
- ・ICRP に関しての信頼性が揺らいでおり、ICRP 基準を基にしていること自体が内部被ばくを軽視していると言える。

(10) その他のご意見

- ・暫定規制値をこれまで使用してきたのは問題であり、新たな基準値を即実行してほしい。
- ・新基準値の施行が早すぎる。
- ・放射性ヨウ素に関しても規制対象としてきちんと基準を定めるべきである。
- ・基準値を超えたものを廃棄する方法を考えるべきである。